

施設における虐待防止に向けた 実態調査について

令和6年1月17日(水)

北海道保健福祉部福祉局

高齢者保健福祉課

調査目的

施設における虐待の背景や要因はもとより、従事者の勤務環境や業務上の課題などの観点から把握・分析し、より安全で適切なサービス提供のための改善に向けた取組に反映させるため。

調査対象

道が所管する全ての介護保険施設の利用者ご本人、ご家族、施設従事者

調査依頼施設	区分	ご本人	ご家族	施設従事者
介護保健施設 397施設	対象者数	3,438人	5,224人	16,400人
	回答者数	2,766人	2,847人	5,539人
	回答率	80.5%	54.5%	33.8%

調査期間等

【利用者本人・家族】 令和5年2月28日～令和5年4月10日

【施設従事者】 令和5年1月30日～令和5年2月28日

【公 表】 令和5年6月21日

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【高齢者虐待防止法における通報義務の認知】（回答数：施設職員5,539件）

- ◆法律の内容まで知っている・・・34%（1,899件）
- ◆法律名は知っている・・・・・・・・55%（3,053件）
- ◆知らない・・・・・・・・・・・・10%（584件）

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【クライアントハラスメントの状況】（回答数：施設職員5,539件）

- ◆ 受けたことがある……………56% (3,074件)
- ◆ 受けたことがない……………44% (2,464件)

【クライアントハラスメントの内容（複数回答あり）】（回答数：施設職員3,074件）

- ◆ 暴力……………83%
- ◆ 暴言……………81%
- ◆ 性的嫌がらせ……………28%
- ◆ 強要（無理な要求等）……………24%

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等を行ったことの有無】（回答数：施設職員5,539件）

- ◆行ったことがある……………9%（506件）
- ◆行ったことがない……………91%（5,030件）

【行った虐待行為等の内容（複数回答あり）】（回答数：施設職員506件）

- ◆心理的虐待……………64%
- ◆放棄・放置（ネグレクト）……………40%
- ◆身体的虐待……………34%
- ◆性的虐待…………… 1%
- ◆経済的虐待…………… 1%

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等を行った場所（複数回答あり）】（回答数：施設職員506件）

- ◆居室・・・・・・・・・・76%
- ◆トイレ・・・・・・・・・・35%
- ◆共有スペース・・・・・・・・34%

【虐待行為等を行った場面（複数回答あり）】（回答数：施設職員506件）

- ◆排泄介助・・・・・・・・・・68%
- ◆食事介助・・・・・・・・・・29%
- ◆更衣介助・・・・・・・・・・24%

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等を行った時間帯（複数回答あり）】（回答数：施設職員506件）

- ◆朝・・・・・・・・・・・・・・・・45%
- ◆昼・・・・・・・・・・・・・・・・53%
- ◆夕方・・・・・・・・・・・・・・51%
- ◆夜間・・・・・・・・・・・・・・56%

【虐待行為等を行ったことがある職員の通算経験年数】（回答数：施設職員506件）

- ◆10年以上・・・・・・・・・・・・66%（335件）
- ◆5年以上10年未満・・・・・・・・24%（121件）
- ◆5年未満・・・・・・・・・・・・10%（55件）

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等を行ったことがある職員の業務負担】（回答数：施設職員506件）

- ◆かなり感じている……………38%（193件）
- ◆感じている……………47%（240件）
- ◆あまり感じていない方……………14%（69件）
- ◆感じていない…………… 1%（4件）

【虐待行為等を行ったことがある職員のクライアントハラスメントの状況】（回答数：施設職員506件）

- ◆クラハラを受けた事がある…83%（422件）
- ◆クラハラを受けたことがない…17%（84件）

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等を行ったきっかけ・要因（複数回答あり）】（回答数：施設職員506件）

- ◆ストレスや感情コントロールの問題……………66%
- ◆人員不足や配置先による多忙さ……………62%
- ◆自己防衛……………22%
- ◆他害行為の制止……………20%
- ◆介護の技術・知識不足のため……………18%

その他複数の回答あり

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【虐待行為等発生（再発）防止に有効と考える対策（複数回答あり）】（回答数：施設職員5,539件）

- ◆職員同士のコミュニケーションの確保……………75%
- ◆負担軽減のための介護職員の増員……………68%
- ◆相談しやすい体制……………66%
- ◆ストレスケアマネジメントの徹底……………60%
- ◆業務量の軽減……………60%
- ◆虐待防止の意識向上……………56%
- ◆介護技術・知識の向上……………54%

その他複数の回答あり

施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について（抜粋）

【職場での高齢者虐待防止に関する取組（自由記載）】

- ストレスケアマネジメントの実践、介護技術や知識の習得を目的とした研修会の実施など、虐待防止に関する取組を施設内で実践していますが、とりわけ個人面談によるヒアリングが重要と感じます。
普段、聞けない話題や秘めている思いなどに触れることができ、業務改善や離職防止に繋がることがあります。
- 不適切ケアが虐待に繋がることが考えられるため、接遇に関して勉強会を行い、不適切ケアの事例について、職員一同かなり神経質になって、利用者の対応に気をつけている。不適切ケアがあった場合は、早めの対応と小さいうちに芽を摘むことが大切です。
- 紙面だけだとわからないこともあるので、職員が利用者役や職員役になって、身体拘束や虐待の動画を作って、これダメですよ促しました。
(その他複数の意見あり)

3 施設における虐待行為等に関する 実態調査の結果について

- ◆ 本年2～4月に道所管の全ての介護保険施設に虐待行為等に関する実態調査を実施。

調査の結果について、道(高齢者保健福祉課)ホームページに掲載

